

はじめに

平成以降の調査研究の歩みを、3章に分けて記す。

第1章では、実験農場に関しては、外部有識者の参加を得て、農場のあり方について検討会を開催した経緯があり、その検討の参考資料として、実験農場における事業の変遷について2008年に当時の川口将志専務理事がまとめられたものを小川増弘が様式を変更して掲載した。

第2章では、2002年以降の農場独自の調査研究の中心が黒毛和種の繁殖生産に移行したことから、この間の課題を小川増弘が総括的に整理・分析した。

第3章では実験農場の調査研究の中で、国、日本中央競馬会の助成を受けて実施した事業や農研機構内研究機関との協定研究について、その経緯及び事業内容の記録を整理し掲載した。

資料編の1職員の記録として農場職員や事業担当者、研修生について、2では外部事業、委託・協定研究について、3では委員会等に協力して頂いた方々について、4ではイベント及び筑波研究学園都市協議会に係る事業の参加について、5では日本農業研究所の調査研究誌である「農業研究」に掲載された論文タイトル及び執筆者氏名、6では令和3年度からの農業生産法人による農地利用及び土地売却経緯の記録を掲載した。

また、写真集として農場に関連した写真をまとめて掲載した。